

1996 年度（地文研天文部 07 ソフト・池田班）駒場祭プラネタリウムソフト

## とある夜の物語

シナリオ作者・ソフト編集担当：池田健作

- ※音声ソフト MD が見つかったので、聞き取れる部分をスクリプトとして掘り起こします。
- ※音楽つき音声ソフトに関しては、現在では音楽の著作権保護のため、インターネット上の公開ができません。ご了承ください。
- ※物語はフィクションです。

Chap. 1 (0:00)

(飛行体の着陸音)

(学校の終業ベル)

(人々の雜踏)

- ひろみ : ねえねえ、ゆみ、新しいお話かけた？  
ゆみ : あ、ひろみ？なかなか書き出せなくって。  
: やっぱり私、才能が無いのかもしれない。  
ひろみ : このまえの天の川のお話だってすごくよく書いていたし。  
ゆみ : みんなそういってくれるけど、あのお話、  
: 宮沢賢治の銀河鉄道の夜ってあるでしょ。  
: あの物語の二番煎じって感じがするんだ。  
かずま : おーい。ゆみ、ひろみ。何沈んでるんだよ。  
: それより今夜、新月なんだよ。  
: 空も晴れてそうだし、浜辺に星を見に行かないか？  
ひろみ : かずまったく何言ってるの？まったく暇なんだから。  
: ゆみ落ち込んでないでさ、帰ろう？  
ゆみ : ごめんね。今日、お父さんが漁からかえってくるんだ。じゃあね。

## Chap. 2 (2:16)

(BGM メインテーマ ON)

(まな板と包丁の音)

ラジオの音アナ1：このフェスティバルは11月22日から24日まで開催される予定です。  
：では明日の天気です。佐藤さん。

ラジオの音アナ2：今日は一日中よいお天気でしたが今夜半から曇りはじめ、  
：明日は、日中いっぱい雨となりそうです。ひまわりの写真です。  
：近畿から中部地方にかけ雲が多く…。

(ドアが開く音) (アナ2の音声にオーバーラップ)

ゆみ : ただいまー  
お母さん : あら、ゆみが、かえってきたわ。おかえりなさい。  
: お父さんが帰ってきてるわ。手を洗ってらっしゃい。

ゆみ : おかえりなさい。おとうさん。  
お父さん : ただいま。ゆみ、最近元気が無いそうじやないか。  
お母さん : いつも閉じこもって本ばかり読んでいるんですよ。  
: 学校でも内職ばかりしているって先生からお叱りの電話があったわ。  
お父さん : 母さんから話はきいているよ。本当に作家になりたいのか?  
ゆみ : (ためらいながら) うん。  
お母さん : 作家なんて簡単になれるものじゃないのよ。  
: ゆみ、本当になりたいの?  
ゆみ : 今迷ってるの、ほつといて。

(走る足音) (オーバーラップ)

お父さん : こら、ゆみ、まちなさい。

(ドアをしめる音) (オーバーラップ)

ゆみ : まよって、考えてるのに、わからずや。

Chap. 3 (4:30)

(BGM メインテーマ 繼続 ON)

(効果音 潮の満ち引き オーバーラップ)

- ゆみ : ふう。かずまの言った通り。今日は星が本当によく見える。
- かずま : おーい。
- ゆみ : あ、かずま、やっぱりきてたんだ。
- かずま : はは、親父と喧嘩しちゃってさ、  
: あんまりうるさいんで家を飛び出してきちゃった。
- ゆみ : ゆみこそどうしたんだよ。
- ゆみ : ううん、ちょっとね。

Chap. 4 (5:15)

(BGM サブ 1)

- かずま : ふーん、まあいいか、おい、それより、みろよ。  
: 今ちょうど真上にみえている M 字型の明るい星。  
: そう、これがカシオペアさ。  
: この辺とこの辺をのばしてぶつかった点。  
: と、ここと、この星を結んで 5 倍した星、これが北極星さ。
- ゆみ : かずまったら、知っているわよ。  
: カシオペアはエチオピアの国王ケフェウスの王妃よね。  
: 自分の美しさを自慢しすぎて、  
: 海の神ポセイドンを怒らせちゃったんだよね。  
: ポセイドンは化け鯨に津波をおこさせたんだ。  
: それでこまったケフェウス王は娘のアンドロメダを生贅にしたんだよ。  
: で、そのアンドロメダを英雄ペルセウスが救ったってわけ。
- かずま : へー詳しいな、それが、(2 秒空白) アンドロメダ (2 秒空白)  
: カシオペア (2 秒空白) ケフェウス (2 秒空白) ペルセウス か。  
: そつか。たしかに、ちかくにあるよね。  
: ふふふ、ゆみ、なんか急に元気出てきたな。  
: ま、これでこそ俺が来た甲斐があったってもんだけね。
- ゆみ : なにいってるのかずま。あなたは親と喧嘩してきたんでしょう？
- かずま : ははは。そうそう、くじら座なんてもんもあったよな。  
: 胸のあたりにある ミラって星が変光星でね。  
: 明るいときには 2 等星ぐらいまで明るくなるんだよ。  
: うん。今頃だとたぶん、南の空に見えてると思うんだけど。

(風と波の音 オーバーラップ)

- ゆみ : ペルセウスが石にして沈めたっていう化け鯨ね。  
: えっと、どこかなあ。なんだか急に空が明るくなってきたみたい。
- かずま : そういうえば、うん。なんか、だんだんくもってきたな。  
: さっきまであんなに晴れていたのにね

(雨の音 オーバーラップ)

- ゆみ : あ。つめたい。

(雷の音 オーバーラップ)

- かずま : うわ、雨が降ってきた。あそこの樹まで走るぞ。

Chap.4 (8:15)

(BGM なし)

(激しい雨の音 オーバーラップ)

(雷の音)

ゆみ : なんで小屋の中に。ここは一体、どこ。

(瓶が転がる音)

ゆみ : あ、いけない。

小屋のおじいさん : おや、どなたかな。

ゆみ : すみません。急に雨がふってきて。

小屋のおじいさん : (咳の音) おやおや、ずぶ濡れじゃな。

: まずは、こっちに来て、あたたまりなされ。

: そうじやな、暖炉に火をつけよう。

Chap. 5 (8:57)

(BGM 最初なし)

(暖炉で火が燃える音)

ゆみ : おじいさん、おひとりなんですか？

小屋のおじいさん : ああ、そうじや。お前さんもおひとりかな。

ゆみ : うーん。

小屋のおじいさん : そうじやて、だれにでも、悩み事はあるものじや。

: わしは昔、くじらを追って、

: 北はアイスランドから南は南極海まで航海したものじや。

ゆみ : 鯨を追って、南極海までですか？

小屋のおじいさん : うむ。そうじやな。

: この鯨の石の彫刻をみなされ。

ゆみ : わー、かわいい。

(BGM サブ2 オーバーラップ)

小屋のおじいさん : これは、わしが若いころ、南極海を東にわたり、

: マゼラン海峡を越えて、アフリカ東岸エチオピアに立ち寄ったとき

: 海辺で拾った物じや。

ゆみ : うん。見かけより重い。

: でもこの鯨、手の跡（あと）のような突起がありますね。

: それに、なんだか胸のあたりがドキドキ動いてるみたい。

小屋のおじいさん : ほほっほ。なにやら面白いことをいいなさる。

: そうじやな、昔、くじらには、手があったという。

: きっと、大昔のものじやろうて。

ゆみ : この彫刻を拾った時のおじいさんの航海の話、

: もっと聞かせてくださいませんか？

小屋のおじいさん : いいとも。わしはな、エチオピアに立ち寄ったとき…。

Chap. 6 (10:50)

(BGM なし)

(風の音)

(ぽーん、ぽーんという点滅する音 オーバーラップ)

ゆみ : うーん寝ちゃってたんだ。あれ、おじいさんは?  
: な、なに、いったい、くじらの赤い胸が、胸が明るくなったり  
: 暗くなったりしてる。わー。  
(ドアが開く音 オーバーラップ)

Chap. 7 (12:00)

(恒星投影機 ON)

(BGM メインテーマ ON)

(波の音 オーバーラップ)

ゆみ : ここは、どこ？う、海だわ。  
ティアマト : ゆみさん、貴方がいるのは私の背中の上です。  
: 私の名は、ティアマト。  
ゆみ : (ひどく驚いた様子で) ティアマト? すると、あなたは。  
ティアマト : そのとおり。私はペルセウスによって石にされた  
: エチオピアの海の大怪物、ティアマトです。  
: くじら座として空にあがったあと、私の体は小さな石になりました。  
ゆみ : そして、おじいさんに拾われて、日本にきたのね。  
ティアマト : そうです。でも、私の故郷はエチオピアです。  
: 大神ゼウス様に故郷に戻れるようお願いしたところ、  
: 今晚だけ地上に生を授かることができたんです。

(大きな波の音)

ティアマト : では、エチオピアの海を目指して東へ。  
ゆみ : え、わたしもいくの？ふう、面白そうね。

(流れ星風の音)

ゆみ : わー星空がぐんぐん動いていく、はやいはやい。

(恒星投影機 回転開始)

Chap. 7 (13:47)

(BGM メインテーマ フェイド OUT)

(BGM サブ 3)

オリオン : おいそこの娘、この俺をしっているか？  
ゆみ : その声はだれ？  
オリオン : 俺の名は、オリオン。今ちょうど南の空に見えている、  
: この3つ星とそれを囲む長方形。  
: それが森の王者オリオン様の姿さ。  
ゆみ : ずいぶんと偉そうなのね。  
オリオン : あたりまえだろ。  
: 俺は全天で一番美しいオリオン大星雲をもっているんだからな。  
ゆみ : ほんと、きれい。まるで、鳥の羽の様ね。

(BGM サブ 3 フェイド OUT)

Chap. 8 (15:01)

(BGM サブ 4)

りゅうこつ : ゆみさん、全天でもっとも明るい星はござんじですか？  
ゆみ : しってるわよ。一番明るい星は、シリウス。そう、あの星ね。  
: えーと、2番目は。  
りゅうこつ : 2番目はわたし。りゅうこつ座のカノープスです。  
: みかけの明るさでは、シリウスに負けます。  
: でもこれは、地球からの距離がシリウスが8.7光年なのに対し  
: (カノープスが) 200光年と遠いため。  
: 実際には、太陽の2万倍も明るく輝いているのです。  
ティアマト : 中国では、カノープスを一目見た者は、  
: 豊穣事がかなうという言い伝えがあるんですよ。  
ゆみ : ふーん。わたしも何かお願い事しようかな。

(BGM サブ 4 フェイド OUT)

Chap. 9 (16:05)

(BGM サブ 5)

ポルックス : あーみてみてお兄ちゃん。  
: 変な船にのって海の上を移動してる人がいるよ。

カストル : ほんとだポルックス。なんだか船じゃなくて、くじらみたいだぞ。

(大きな波の音 オーバーラップ)

ゆみ : わ。つめたい。なによ。だれ。どこにいるの？

兄弟二人 : ここ。ここ。

カストル : 僕たちはふたご座の頭の部分にある兄、2等星カストルと、

ポルックス : 弟、1等星のポルックス。

カストル : ゼウス様とスバルタ王妃レダの間にできた、双子さ。

ポルクッス : 僕らはギリシャ人のイアソン率いるアルゴ船に乗って、

: 金色の毛の羊を取りに行く冒険をしたんだ。そう、立派な船でね。

ティアマト : 立派な船じゃなくて悪かったです。

(大きな波の音 オーバーラップ)

(BGM サブ 5 フェイド OUT)

ゆみ : もう、くじらでもいいじゃない。

(BGM メインテーマ フェイド IN)

ティアマト : さあ、もうすぐハワイの近くを通過します。

: しっかりつかまっていてください。

(流れ星の音 オーバーラップ)

(BGM メインテーマ フェイド OUT)

Chap.10 (17:51)

(波の音)

- ゆみ : あれ、もう、どこまできたのかなあ？  
ティアマト : ここはもう、南北アメリカ大陸の丁度中央、  
: メキシコのすぐ沖合です。  
ゆみ : もう、だいぶ遠くまできたのね。  
: わあ、あの星きれい。あなたは？

(BGM サブ 6 フェイド IN)

- スピカ : そうきれい？わたし、よくひとに真珠星っていわれるよね。  
: わたしはスピカ。農業の女神デメテルである、おとめ座の一等星なの。  
: せつかくなので、私の友達、アルクトゥルスも紹介させてね。  
アルクトゥルス : おほん。紹介にあづかった俺様が、  
: うしかい座の1等星アルクトゥルスだ。  
: 俺様は、シリウス、カノープスについて全天で3番目に明るい星だ。  
: どうだ、力強く光っているだろう。  
ティアマト : あの二つの星を、春の夫婦星ということもあるんですよ。  
ゆみ : ふーん。そうなのか。  
ひしゃく星 : 私の事も忘れないでください。  
ゆみ : あなたは？あ、あそこに見えるひしゃくさんね。  
ひしゃく星 : そう、私は、ひしゃく星こと、北斗七星です。  
: このひしゃくの柄の部分の曲線をこうやってたどっていくと、  
: ほらアルクトゥルス、そして、スピカがあるでしょう。  
星たち声を合わせ : そう、それで、私たちをつないで、  
: 春の大曲線というんです。  
スピカ : 美しいでしょう？  
ゆみ : そうだねえ。

(BGM サブ 6 フェイド OUT)

Chap.11 (20:08)

(BGM メインテーマ ON)

(波の音 オーバーラップ)

- ゆみ : あれ、もう日本より大分東に移動しているのに、  
: 日の出が見えないなんて。  
ティアマト : ゆみさん、よく気が付きましたね。  
: 今日は日本では新月。  
: そして、地球の反対側では日食が起きる日だったんです。  
ゆみ : 偉そうに言って。たまたまじゃないの？  
ティアマト : いえいえ、これも私が見つからないようにとのゼウス様のご配慮。  
: ここからは南極海を目指して進みます。

(流れ星の効果音 オーバーラップ)

- ゆみ : わーきれい。天の川が空一面に広がってる。  
: この天の川が、私たちの住んでる銀河系よね。  
ティアマト : そう、私たちが住んでいる銀河系は横から見ると、  
: 凸レンズみたいな形になってるんです。  
ゆみ : しってるわ。それであんな風に天の川が、見えるってわけね。

(BGM メインテーマ フェイド OUT)

Chap.12 (21:36)

(BGM サブ 7)

- さそり座 : へつへつへ。俺様をご存知かな？  
ゆみ : あ、あなたは？  
さそり座 : へつへつへ。俺はさそり座。東の空にいるんだぜ。  
: ここにみえる三つ星を頭にして S 字型に星をつなげるんだ。  
: この毒針で、あのオリオンさえやっつけたんだぜ。  
ゆみ : え、なんでオリオンを殺したの？  
さそり座 : オリオンが森を荒らしたからさ。  
: それで女神アルテミスの怒りに触れたんだ。  
: おとなしくしてりやいいのによう。  
ゆみ : ふーん。そんなことがあったんだ。  
ティアマト : しってますか。サソリの心臓の赤い星がアンタレスなんですよ。  
: アンタレスは火星のように赤いので、ギリシャ語で  
: 火星に対抗するもの、という意味なんです。  
: それじゃあ、先を急ぎましょう。

(BGM サブ 7 フェイド OUT)

Chap.13 (23:02)

(BGM サブ 8)

- ゆみ : あ、南十字星がみえる。ほらほら、南の空にみえる。  
: 1、2、3、4つの星。  
: わー、本当に、ずっと南まできたんだね。  
南十字星 : よくみつけてくれました。  
: 私の姿は見つけやすいので、  
: 昔の船乗りたちが方角を知るのに使ったんです。  
: そう、旅人の守り神でした。  
: せつかくなので天の南極の見つけ方をお教えしましょう。  
: 南十字星の縦の二つの星、この星とこの星を結んで、  
: 縦に1、2、3、4、5倍すると、  
: そうここが天の南極です。  
: 南半球の星空はこの点を中心に、時計回りに回転しているんですよ。  
ティアマト : ゆみさん、今度は何をお願いしているのですか?  
ゆみ : なんでも、いいでしょ。

(BGM サブ 8 フェイド OUT)

Chap.14 (25:01)

(BGM サブ9)

- はえ座 : 僕って意外ときれいでしょ。
- ゆみ : うん。きれいきれい。かっこいい名前とかあるの？
- はえ座 : (泣きながら) 僕。はえ座。
- ゆみ : (驚いたように) はえ・・・？
- はえ座 : うえーん。
- ゆみ : そらで輝いているんだから、いいじゃない。
- はえ座 : よくない。カメレオンにいつつも狙われてるんだよ。
- はえ座 : ほら、あそこにいる。
- ゆみ : うーん。かわいそう。南天って変な星座が多いねえ。
- はえ座 : うん。変な星座って僕の事？
- ゆみ : そう、そういうわけじや。ただ、かわってるなあってね。
- はえ座 : ならいいけど。
- はえ座 : 僕の他にも変わった名前のが色々いるんだよ。
- はえ座 : たとえばねえ、ここに、ポンプでしょ。顎微鏡に。タカ座。
- はえ座 : そうそう、トビウオなんてかわいいのもあるんだよ。
- ゆみ : ふうーん。
- はえ座 : それとあそこにはインディアンに、クジャク。
- はえ座 : いいなあ。かっこいい。
- ゆみ : うーん。あまり落ち込まない事ね。じゃあね。
- ティアマト : さあ、もうそろそろ南極海の近く、マゼラン海峡を通過します。

(BGM サブ9 フェイド OUT)

Chap.15 (26:58)

(BGM サブ 10)

- 星の声 : ねえねえゆみちゃん、数学すき？  
ゆみ : え。得意ではないんだけど…。なんで？  
コンパス座 : 私はコンパス座なの。  
定規座 : そう。わたしは、定規座なの。  
ゆみ : あ、ごめん。数学関係の星座もあるんだね。  
コンパス座 : 私たちは 18 世紀になってできた新しい星座なの。  
ゆみ : そうなんだ。新しいのばっかとおもってたよ。  
定規座 : 意外だった？おぼえててね。

(BGM サブ 10 フェイド OUT)

Chap.16 (27:53)

(BGM メインテーマ ゆっくり低音階に変調)

(波の音 オーバーラップ)

- ゆみ : なんだか風が強くなってきた。  
ティアマト : さあ、エチオピアまでの道のりはもう少しです。  
ゆみ : エチオピアについてしまったら貴方はどうなるの？  
ティアマト : 私は、そう、また、石になります。  
: 大神ゼウス様はこの世に一晩だけ生をくださいました。  
ゆみ : そんな。また、石になってしまうなんて。  
: 私、ゼウス様にお願いを。あれ。なんだか明るくなってきた。  
ティアマト : 日食が、もう、終わるんです。

(恒星投影機 停止)

(BGM メインテーマ低変調 フェイド OUT)

Chap.17 (29:39)

(BGM サブ 11)

(波の音 オーバーラップ)

- ペルセウス : そこの怪物、その娘を離せ。  
ゆみ : あ、あなたは。  
ペルセウス : 私は、ペルセウス。  
ゆみ : するとあなたが、アンドロメダ姫を助けたという。  
ペルセウス : エチオピアに嵐をもたらす海の怪物、  
: 大神ゼウス様に代わって再び退治してくれん。  
ゆみ : まってまって。ティアマトを石にしないで。  
ペルセウス : そのいけにえの娘を離せ。
- (雷鳴音 オーバーラップ)
- ゆみ : ちがうの。このくじら。ティアマトのおかげで。  
: 私は世界中の星々をみて。  
: カノープスにも南十字星にもお願いできたの。  
: そして今、ティアマトがエチオピアに帰つてこれたの。  
: だから、ゼウス様、おねがい。
- ペルセウス : 化け鯨。覚悟。
- おじいさんの声 : (神々しい声で) やめい。
- ゆみ : きや～。
- (海に落ちる音)
- (くじらの鳴き声の効果音…約 10 秒)

(BGM サブ 11 フェイド OUT)

Chap.18 (31:40)

(波音・・・ゆるやかに)

- かずま : ゆみ、ゆみ、ゆみ、しっかりしろ。ゆみ。  
ゆみ : え、おじいさんの声がしたとおもったんだけど。おじいさんは?  
かずま : うーん。おじいさん?なんだよ。俺は、かずまだろ。  
: 雷で気を失っていたんだ。心配したぞ。  
: いっくら呼んでも気が付かないんだもんな。  
ゆみ : そうね。夢をみていたみたい。  
: あ、西の空。ティアマトが沈んでいく。  
かずま : どうしたんだよ。  
ゆみ : ううん。

Chap.19 (32:51)

(足音 3 秒)

(ラジオの音 (chap.20)、オーバーラップ)

かずま : ふーん。くじらね。ゆみって意外とロマンティストだな。

: さすが作家を目指すだけのことはある。

ゆみ : ううん、もう、作家はいいの。やっぱり、無理じゃないかなあって。

(ラジオ オーバーラップ タイミング： では、海外からのニュースです・・・)

(BGM メインテーマ フェイド IN)

ゆみ : ティアマト生きてたんだ。

: なんだかすごくいい物語が書けそうなの。

: 早く帰らなきやね。じゃあね。

かずま : おーい、作家を目指すというのは… (フェイド OUT)

(BGM メインテーマ 残り約 3 分最後まで) (37:30 End)

Chap.20 (ラジオの声) (Chap19 とオーバーラップ)

昨日午後 3 時過ぎ、2 階にいて物音に気付いた住民が一階におりたところ、クマがベランダの窓を叩いていたとのことです。クマは体長 1 メートルほどですぐに山に帰って行き、住民にけがはありませんでした。

次に、佐渡島で人工繁殖を試みていた中国のトキは、佐渡島から中国に返還される予定です。

では、海外からのニュースです。

旧エチオピア領、エリトリア近海で今朝珍しい鯨が発見されました。地元の観光船によって発見されたこの鯨は、南極海から北上 (ほくじょう) したものと思われますが、胸のあたりが赤く、大変人懐っこいとのことです。(フェイド OUT)

## ～シナリオ公開に当たって～

1996年当時、プラネタリウムのシナリオを書くということは、僕にとって想像以上に難しい事でした。シナリオの構成は最初からある程度考えていたものの、それを言葉に表現するとなると、筆がとまり、また、とても恥ずかしくもありました。ですが、ノリのいいサークルの方々の支えと、考えたシナリオを皆で少しづつ修正しながら録音・編集する姿勢の甲斐があって、なんとか上映当日までに完成させることができました。ひとえに、OB・OGの方々のかげの支えと、声優の皆さんのお熱意のたまものだったと思います。

今になってシナリオを公開するに至った動機は、近年のレトロブームの要請によるものだけでなく、当時お世話になった方々と、とりわけ僕自身が過去を振り返るうえで不可欠なものと感じたからです。

最後になりましたが、東京大学地文研究会天文部06・07・08の方々に改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。

2018年9月吉日

池田健作

## ～シナリオ作成のよもやま話～

本作のシナリオを考えるうえで一番考慮したのは、恒星投影機の担当者の方からの要請でした。それは、「恒星投影機の電球が、例えば5分で焼き切れることがあっても、シナリオとして始めから終わりまで成立するお話を書いてくれ。」ということでした。

恒星投影機は、1996年当時はピンホール式の単一光源を用いており、天文ドームの内側にできるだけ明るく星を映し出すために、電球には耐用限界ぎりぎりの電力負荷をかけることになります。それゆえ、日本ではおなじみのカシオペア座やオリオン座からはじまって、だんだんと、はじめて見るような星座へと遷移していくのは、天球儀上の星座の並びの必然性だけではなく、「電球がどれだけ高電力の発熱に耐えられるか。」という天文部員、とりわけ、恒星投影機担当者と電源担当者の挑戦を描写するものでした。つまり、プラネタリウムを作成する人間も時間との戦いでしたが、製作された機材・電球そのものもまた時間との戦いであったと言えます。

「フィラメントの形状が丸形で、できるだけ耐用時間が長い電球・・・」は、市販の電球の中からは探すことは困難であり、なかなか見つかりませんでした。地下鉄銀座線で末広町まで通い、8月の夏の暑い日差しの中、一週間ぐらい朝から晩まで秋葉原の電気街をさまよった覚えがあります。最終的には秋葉原の電気屋さんに特注して電球を作っていただきました。今考えると、電気屋さんにはずいぶんと無理を言ったなあと、自省するとともに、僕たちのわがままを聞いてくれた当時の秋葉原の町工場の方には感謝するしかないなあと感じています。この場を借りて、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

そんなアナログな時代から、今はデジタルな時代へと変わり、天文部のプラネタリウム製作サイドには別の意味での負荷が色々とかかっていると聞いております。時代の波をどうやって乗り越えてくれるのか、次の若い世代の方には期待したいと思います。

2025年（令和7年）4月

池田健作